

# 「経済的貧困」だけでは括れない子どもの現実

10月に実施された藤沢市「子どもと子育て家庭の生活実態調査」。結果が明らかになってきたので、その中から気になる点を抽出した。

※いずれも回答の上段は小学5年生（N=1,595）下段は中学2年生（N=1,049） Nは有効回答数

授業について	とても楽しみ 12.8% 4.7%	楽しみ 34.4% 23.6%	少し楽しみ 34.0% 40.1%	楽しみではない 17.2% 30.5%
学校の授業がわからないことがありますか	あまりわからない 6.3% 9.6%	わからないことが多い 3.9% 6.7%	ほとんどわからない 0.6% 1.7%	三つの計 10.8% 18.0%
いつごろから授業がわからなくなりましたか	1年生の頃 11.1% 1, 2年の頃 11.4%	2年 11.1% 3, 4年生 5.7%	3年生 18.1% 5, 6年 18.2%	4年生 20.8% 中学1年 42.0%
	(前出「わからないことが多い」「ほとんどわからない」への質問)			
自分が好きだ	とても思う 18.8% 13.6%	思う 39.9% 34.8%	あまり思わない 27.5% 33.0%	思わない 12.3% 16.0%
自分の将来が楽しみ			あまり思わない 17.1% 26.5%	思わない 6.1% 10.7%
自分は価値のある人間			あまり思わない 23.5% 28.6%	思わない 13.0% 14.7%
学校に行きたくないと思った	よくあった 8.7% 13.7%	時々あった 22.4% 27.4%	二つの計 31.1% 41.1%	
いじめられた	よくあった 3.3% 2.5%	時々あった 10.1% 8.5%	二つの計 13.4% 11.0%	
平日に朝ごはん	食べる方が多い 3.2% 5.2%	食べない方が多い 1.1% 1.7%	いつも食べない 0.8% 1.3%	
平日に夕ご飯誰と食べる〈複数回答〉	ひとりで食べる 3.8% 17.9%			
〈心配や困りごとについて 選択肢から複数回答〉	家にお金がない（少ない） 5.9% 7.1%			

これらの調査と家庭の経済状況をクロス集計していくことで習熟度と家庭の経済状況との関連性が明らかになることと思われるが、この抽出だけでも見て取れるのは、経済的な困窮世帯より多くの子どもに学習面での困難が生じている点であり、またそれより多くの割合で自己肯定感を持っていない子どもが多く現出していることである。

結論を急ぐつもりはないし、むしろ地域ごとに丁寧に分析、評価をもって、事態に対する対策、政策を講じていかなければならないのだが、子どもの置かれている状況は相当に深刻であり、今回の「実態調査」を基にした共通認識を学校、家庭、地域の中で確認する必要がある。

それは、「経済的貧困」だけでは括れない課題の存在であり、経済的な困窮世帯だけを対象とした対策で線引きをしようとする、本当に支援を必要とする対象が潜在化してしまう恐れや、子ども同士や子育て世帯の間に分断をもたらす危険性があるということだ。

市内でも増えてきた「子ども食堂」に行くことで「貧困」という目で見られるために敬遠する例や、実際に家計は成り立っていても共働きや一人親家庭のために一人で食事をする子どもが増えている動向は経済的線引きだけでは拾い出せない現場の実態なのだ。

12月の市議会で継続審査となった「子どもの未来応援条例」の行方にも注目して下さい。  
この条例の何が問題なのか、一緒に考えて頂ければ幸いです。（裏面参照）

## 市内不登校児童・生徒の推移（人）

	2012	2015	2016	2017
小学生不登校	62	99	133	168
中学生不登校	254	322	340	406

## 不登校となったきっかけ（中学生 / 複数回答）

	2015	2016	2017
いじめ	5	6	1
いじめを除く友人関係	141	101	159
教員との関係	9	3	24
学業の不振	38	62	76
進路に係る不安	—	10	29
部活動への不適応	11	8	8
学校の決まり等をめぐる問題	17	7	8
入学・転入・進級時の不適応	38	18	38
家庭に係る状況	115	53	104

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（H29年度）より